德政

和書門
類 二四七二九號
函 六六
架 一一
冊 二一二

内閣文庫
和書
類 二四七二九
號
冊 二一二
函 六六
架 一一

内閣文庫
番號 和 24729
冊數 212 (22)
函號 199 216

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

雅俗文庫藏書

浅草文庫

これハ仁和寺乃宮ゝ仕へ申ス僧
都行慶ゝ〳〵仮ばかりも孝養の
門出ゝ成ハ未童形の時と
黒髪ゝ剃ゝ仮ばかりゝ今度
西海の合戦ゝ討れ給ひてんゝ青
山ゝ中ゝ琵琶ゝ經ゝ成ゝ生の時
新下さわゝ仏御琵琶ゝ仏

ゆゑすゑ直篇結をかし吊ひ
ト世ゆゑの凡変ましてり程よ假者
をあつめ假（上カル）栞や一樹の陰よ宿
星一河の流也此世こゆゑも皆こ
れ他生乃縁ぞうばしてやだ
祈乃凡値遇恵を保くりけま
くも系も宮の平ゆゑ法変を

あて絶夜軍の經政成皆正
笑いと鼻ハ行（上ニ有）雑さよ孔
よ又皮青心ゆゑ云現世をどら
亡者の唇よ岡法同じく琴
笛の声も佛ゆゑとあ係て間
夜乃法の貴賤の孔も篇
いやく（ミテサシ）和風拍ゆゑを吹バ晴

雨の雨月を砂を照せば夜の夜
乃ものの木き花も安らでぞ
星よりてつる草乃露の身ふ
ぐ滑ぬれ元物の縁こそはく
はきれ　不思議なる昇深更
に成まして夜の灯　ある光の間
よ人新乃ぬいづる月よりほひ
こハ縄改まそまし　泉　泉経
改ぐ麦夏ある苔ぬ有雑さふ
そ道乃も参りた里　そも
縄改の麦ぬ参ふ新方を乃ん
ぬもれぞ又きくと開もふ
て　声ハ遠よ扱れども　ぬ
く乃てきる人新の有りぬとえれば

いきてゐても世ぐ
あれば、いきるよ
ゐげろうの　上毛国
幻の常なき身
とて煙改のごとくもゆる浮世よ
帰わまてそ、とハなの道ども
真主の形ハ見ぬ亡物の志
故こそへなつ恋を人と見る
物と、夏やゆきすれ無植の形ハ消
れたずこあらばかり富乃国ぶ幻よ
名わ名わ夢ぼろ水泡
たる　いきは不思議な煙改の道
霊形ハきこ声ハ強くも云
業をかわきそやよ美形わ
た現ありとも法変の功力成就
して亡者よ云業をとわ

あゝ不思議のすやう　誠に第年
の昔より宮の中よ糸り世とゝ名
を去ることもゞ俗よ思の花迄
あり中ゝもよ同下さる主自山
の春びバ姿婆あゝくの花ゝされ
を氣り常ハ手列し四の結よ
今もびうゝく心故ゞしよ咲た

ゝ橋者の是ゞ正しく姫音の橋
あるべし　上三月　ちきバ代經改ゝ
第年の昔より命よ仁義ゝ
知住乃又常とゝりて内よハ又
花雪月詩哥管絃を考と
い春秋を雲仏の草乃露水
のあれ世乃心ゝもゝ花もゝ

〈　　時に

亡者の為めは何よりも、
安楽めく手向し青山の琵
琶笛琴笙を洞くばかり向の笛
絃歌遊れば　亡者立よりて
灯の影ゆらめく人もなきぬ物すごく
手向の花をちらへ散り　時し
も比は夜半楽眠りを覚て柳

葉ふ　かぎや晴たる空うき
曇り　係て降来れ雨の音
ちきりよ草まを揺ひつ時の河ふ
もめるあらい　雨ふくかぜを
つまあれば覚ぬ　雲の端乃月
みるべ　この岡乃松のあ　夜嵐
て　雨乃ごとく　音信あり

たもとや柳ふるなのきをとる夫
繰ばかりくゆしてはつ雨のごと
しさてはかぜはいとしてはかぜ
うこゝろもちの色中ヲ九第一ホこの絃
ばちくゆしてはつ秋の風雲を拂
つゝ練顔蔵三第四の絃ハ
冷くゆして夜の鶴のよ後思て

この内よりいも鶏も心しで夜相乃
鈴もゆゝしゆよ一声のほゝくりんハ
秋素歳の雲を動せバ風風も
見よめでゝ月のよ龍くゝちゝ
如をゝ孫て舞梅べで律旨の
者でよ情却ゝゝこゝあや
をなれ変も菅を返すまひ乃

袖ごえがさゝを迎うき面白の夜
極楽あゝ有こたもちろうのあいうや
高元八名お情乃夜極楽所有
うゝ楽めゝや適同浮の楽極よ
人り心を乃ぶる折ゝ以又時
恵の寝ゝうゝめしゝや
みゝたゝ人親の牧あハまゝハ縄

踊ゝ内あゝ楽ゝや永遠まゝ人ゝに
乃ゝきまゝぞやあ乃外を者寝
めゝよ　内　姉と背きゝかゝども
よ　懐寝深夜の月ともなに私
や帝釋梵羅の戦ハ炎をちゝ
ちゝ乃猫火石二両と有て
よ京もゝよ　拂よ剣ハ他を恨ま

永ゝし身をきまれごうてハうへいて
猫央とまれば身を屈く苦患ば
づゝや人よはくて物をあの
姉をぎもんやして真身い愚人
夜の中乃央とをちんやを花へて
花とたてて姉あゝと花よ
姉をゆきてくゝぬぎれり

昭翼も央て
新ハうせきをたくきい乃

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan